

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	葛飾区子ども発達センター新小岩分室		
○保護者評価実施期間	令和7年11月1日		～ 令和7年11月30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	65	(回答者数) 30
○従業者評価実施期間	令和7年11月1日		～ 令和7年11月30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	14	(回答者数) 14
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月6日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・児童発達支援計画を子どもの支援に関わる職員が共通理解を持って作成できるよう検討している。	・専門職や児発管の助言を受け、職員間の意見交換を行いながら作成している。	・今後とも、多職種のチームである強みを生かしながら、アセスメントの技術や視点を共有し、継続できるよう取り組む。
2	・子どもが安心感を持って通えること、保護者に共感的に支援を行うことを心掛けている。	・子どもや保護者が安心して通えるよう、送迎時や個別支援の見学時などに保護者と話す機会を作るようにしている。 ・相談内容をクラスの担任、個別支援の担当、児発管、管理者で共有するようにしている。	・取組みを継続する。 ・誰に相談してよいかわからない、とのご意見もあった。契約時、年度初めなどに、定期面談のスケジュール及び、随時ご相談を受けられること、担当者などを改めて周知する。
3	・多職種がチームでお子さんに関わり、多角的な視点から支援を行っている。	・職場内研修や外部講師による専門研修を定期的に実施している。	・職員一人一人の知識が深まること、技術が向上するよう、研修の機会を確保する。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・部屋数が限られており、お子さんの動きによっては狭く感じる時がある。	・部屋数が限られている	・活動時間がずれている場合は空き時間を有効に使い2部屋で活動できるようにする。合築の施設の空き部屋などをお借りして活動を行うなどの工夫を継続する。
2	・保護者交流の場を設けているが、保護者支援の機会として認知されていない。	・年間1～2回のため保護者に情報が浸透していない。	・保護者どうしが構えずに気軽に話ができるよう、短時間クラスは親子活動の時間を設け、親子活動の後に保護者の交流ができるように取り組んだ。継続するとともに周知も行う。
3	・室温が上昇しやすく、暑い。	・支援室が日当たりが良い(南向き)ため、室温が上昇しやすい。子ども・職員とも暑くなってしまい、冬でも冷房を入れて活動する日がある。	・日よけの設置を予定している。このことにより、直射日光を避けられ室温の急上昇を防げる。